

令和6年度9月 秋卒業式 式辞

令和6年9月に学位記を授与された方々は、6名の学士の学位、6名の大学院博士の学位です。今までの大学での研鑽の結果、学位を取得されたことを、お慶び致します。学位の取得とは、学士あるいは博士の学位授与の方針、ディプロマポリシーの内容を達成したと教授会等で認められたということです。とくに博士の学位は博士論文の審査に合格したことを意味しますので、大きな意義を持っているとお考え下さい。

さて、なぜ、秋卒業が9月末なのかということを考えてみましょう。現在の日本の制度では、1年を2分して、4月から9月を前期、10月から3月までを後期とした学年歴となっています。そこで、10月入学、9月卒業となるわけです。

少し前のことですが、世界的には大学の入学時期については秋入学が主流とされているため、日本でも大学の秋入学をすすめようということが話題となりました。しかし、就職の時期が4月採用という慣例が強いこともあり、秋入学の議論は先細りとなりました。

しかし、なぜか、卒業時期をどうするのが、議論から抜けていました。例えば、アメリカでは、実は8月後半に入学、6月卒業です。これが、日本でも、可能でしょうか？とくに、卒業時期を6月とするこ

とができるでしょうか？入学時期よりも、卒業時期のほうに課題があるのではないかと思います。

例えば、移行期間などで、現状の3月卒業と6月卒業を併存させる時期があると、おそらく学期制を見直す必要があります。現在でも、学生の一部が9月入学、6月から7月の卒業を実施している大学はあります。しかし他の多くの学生は、4月入学、3月卒業です。この場合、3学期制をとって、はじめて両者の併存が可能のようです。

このように、入学時期を変えることは、卒業時期を変えることになり、結構おおがかりなことです。決して、10月入学、9月卒業では、世界的な学年歴とは合致しません。今後、十分な議論が必要だと思います。

本題にもどりますが、本日は、卒業／修了 誠におめでとうございました。皆さんの今後のご活躍をお祈りいたします。